

研究開発の加速

国内における開発・生産・再生拠点の再編

日立建機グループは現在、グローバル競争力の強化のために国内主要開発・生産拠点の再編を進めており、2023年5月にはコンストラクション・マイニングの研究開発拠点を土浦工場へ移転・集約しました。

その一環として、今後のグローバルでの再生事業の拡充・発展のため、土浦工場および常陸那珂工場（茨城県）に分散していた再生工場を、2024年度から播州工場（兵庫県）に集約・統合し、部品再生および車体

再製造事業の拡大と効率化を図ることとしました。この再生事業の集約により、現在2つの工場にある再生工場の施設・スペースを利活用し、新車・コンポーネントのさらなる生産能力増強を実現します。

播州工場に再生事業を一元して集約することで、再生事業の拡大と効率化をめざし、海外の再生拠点との連携を強化してグローバル再生事業のマザー工場として、さまざまな取り組みを進めていく計画です。

建設機械の自動化・自律化に向けた取り組み

建設業においては、生産労働人口の減少、熟練技能者の高齢化を背景として、省人化による生産性の向上が課題となっています。その解決策の一つとして、建設機械の遠隔操作や自動・自律運転に建設業のお客さまから期待が寄せられています。

2023年5月、遠隔・自動化ソリューションに対応する油圧ショベルのベースマシンを開発しました。油圧ショベルの遠隔操作を行うためには、大がかりな機械の改修や周辺機器のセットアップが必要ですが、施工現場の課題を改善するためには、油圧ショベルの遠隔操作を導入しやすくし、自動運転のソリューションをお客さまと協創するためのベースマシンが必要となっていたものです。

当社は2020年に建設機械の自律運転に対応するためのシステムプラットフォーム「ZCORE (ズィーコア)」を開発して以降、そのコンセプトのもとに研究開発を推進しています。今後は、遠隔での掘削・積み込み作業における運転支援機能の拡充や、掘削・旋回・積み込みといった一定の動作を繰り返す作業を自動で行うなど、お客さまの施工に合わせたソリューション開発を段階的に進めていきます。



ベースマシンを遠隔操作している様子

2018年度より段階的に開発・生産拠点を再編。2027年度に完成予定。

再編後の主要開発拠点・完成車工場

開発・生産拠点を
3つの事業分野別に集約

お客さま志向への転換と
生産効率向上をめざす



コンストラクション

開発：土浦工場 生産：土浦工場・龍ヶ崎工場



中型ショベル 中・大型ホイールローダ

マイニング

開発：土浦工場 生産：常陸那珂臨港工場



大型ショベル 超大型ショベル ダンプトラック 超大型ホイールローダ

コンパクト

開発・生産：日立建機ティエラ



ミニショベル ミニホイールローダ